

食いしん防災コミュニティ部会がいく！



前回、巻頭のあいさつで防災にまったく関係のないことを延々と書いてしまい、深く反省・・・していない食いしん防災コミュニティ部会です。今回はふたたび映画話に戻ります。



防災といえばパニック映画（強引だ！）ですが、1970年代パニック映画ブームの嚆矢となったのは、「ポセイドン・アドベンチャー」という作品でした。大波を受けてひっくり返った豪華客船の中で、生き残った乗客たちが決死の脱出をはかる。上下さかさまのセットが話題を呼んだこの作品、筆者は子どものころテレビの洋画劇場で見ました。

防災の観点から見たこの映画のキモは、次の点です。船内で生き残った人は、2派に分かれます。このまま動かず救助を待とうとする人々と、海面に近い方まで移動しようとする主人公たち。（たしか9人くらいだったと思う。）

上下逆になった世界で上がることは、元の船では出口のない底へ向かうことになる。だから大多数は動かないことを選択するのだが、みんな浸水で命を落とす。一方で上に向かった組にも次々犠牲者が出るが、最後に数人（5人くらいだったかな？）が無事救出される。



危険に直面した時の基本は、「可能なかぎり逃げる」ということ。「逃げる」とは「より安全な場所に移動する」ことを意味します。これがいかに大切なことかは、東日本大震災の「釜石の奇跡」や、韓国で起こったセウォル号の沈没事故を見ていると、よくわかります。このように、「ポセイドン・アドベンチャー」は「逃げることの大切さ」を教えてくれたのです。



卑怯者たち。この後とんでもないことに

ちなみにこの映画のヒットで気をよくした制作者が次に放ったパニック大作「タワーリング・インフェルノ」（超高層ビルが火事になる）では、われ先に逃げようとした卑怯者（火事の原因を作った責任者でもある）がとんでもないことに。「他人を押しつけて逃げてはいけない」という教訓を与えてくれます。でも近年の「タイタニック」では、ズルして救命ボートに乗った卑怯者が無事生き残っちゃう。観ていて複雑な気持ちになりました・・・

おおっ、今回はけっこうそれらしくまとまっているではないか。これではまるで反省したかのようなので、今回はまた関係ないことを書こうと心に誓う食いしん防災コミュニティでした。

TOPICS

☆下岸本町 DIG 出前講座

11月18日、下岸本町草の根ハウスに、DIG（災害図上訓練）出前講座に行ってきました。こちらでは2回目となるDIGでしたが、多くの方が集まってくれました。

下岸本町はさほど大きな自治会ではありませんが、年代のバランスがとれた世帯構成になっているところが特徴です。この日も、小さなお子さんから若い世代、年配の方まで満遍なく参加されました。

みんなでワイワイにぎやかに、笑いの絶えない中で災害への備えについて考えた2時間でした。

リノリの皆さん→



☆小田苅町でマップ作りのまち歩き

11月25日、小田苅町で2年連続となる「防災マップ作り」が行われ、おいしい防災コミュニティ部会もお手伝いで参加しました。



カラリと晴れた気持ちのよい天気の中、5つの班に分かれて町内を歩き、危険なところを確認しました。先の台風の爪痕も、まだあちこちに生々しく残っており、自然が牙を剥いた時の恐ろしさを改めて感じるようになりました。

公民館に戻ってから、確認した個所を地図に書き込み、撮ってきた写真を貼り付けました。最後は各班の代表が発表して、全員で情報を共有しました。

忘れてならないのは、防災マップを作ること自体が目的ではなく、危険な個所を少しでも減らしていく努力をしなければならない、ということです。加えて、近所の危険個所をすべて覚えても、意味がありません。まったく違う場所（たとえば初めて訪れたところ）で災害に遭うかもしれないからです。何が危険なのか察知する目を養い、いざという時はそこから「逃げる」ことができるようにするのが、まち歩きの大きな目的なのです。

（おおっ、巻頭の話とつながった！）



☆湖東地区防災ネットワークが「わがまち協働大賞」に入賞！

12月1日に発表された「平成30年度東近江市わがまち協働大賞」。栄えある大賞は、「女子野球で少女たちに夢を！ 地域に元気を！」で池庄町を本拠地とする東近江バイオレッツに決定！（他にスマイルホームラン賞と日本一になるで賞も獲って3冠王）バイオレッツさんおめでとうございます！ 食いしん防災コミュニティ部会も、陰ながら応援しています。



さて、「持続可能な防災力向上プロジェクト」でエントリーした我が湖東地区防災ネットワークは、入賞（佳作か残念賞みたいなものか）と協働コーディネーター賞の2部門を獲得。投票・応援してくれた方ありがとうございます！ 授賞式では村田道広代表が、満面の笑みで賞状と副賞を受け取りました。（左写真）

審査に参加してくれた東近江市内の中学生のコメントを紹介します。（一部抜粋）

- ・たくさんの方が参加するのが良いと思った。
- ・自分たちでまちを守って、何かあっても安心できるまちづくりをしてほしい。
- ・備えることの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・地域全体のプロジェクトなので、より良い方法や訓練などができそう。
- ・すべての人のためになるので良いと思った。（以上、朝桜中学生）
- ・いざという時に役立ちそう。
- ・防災力をつけられると安心して生活できる。
- ・地域のつながりを生み出している。（以上、船岡中学生）
- ・大きな組織で活動するので、大きな問題にも取り組める。
- ・他のエリアにも広げていったらいいと思う。（以上、永源寺中学生）

今後の活動予定

2019年

1月24日（木）湖東地区防災ネットワーク ひばり幼稚園ブロック会議

25日（金）まちカフェ ハイゼックス炊飯袋でクッキング体験

2月 6日（水）湖東地区防災ネットワーク 第2小学校ブロック会議

勝手にQ&Aコーナー

「こんな質問があるかも」と勝手に想像して答えるコーナーです

Q：危険を察知する目は、どうやって育てればよいのですか。

A：まずは自分の部屋からスタート。もし大きな地震がきたらと想像して見回し、落ちてきそうなものや、倒れてきそうなもの、割れそうなガラスなどを探します。可能な対策（重いものは棚の上に置かない、家具の固定化、飛散防止シールをガラスに貼る、など）をとり、対策がとれない危険に対しては、安全な逃げ場所を探しておきます。

同様のことを、家の周囲や通り道、学校や職場など行きつけの場所に広げていきます。屋外では地震の他に風水害も想定する必要があります。風で飛びそうなもの、増水で危険な河川や水路、水没地域などを探します。自然災害だけでなく、事故や火災・犯罪・テロなども考慮する必要があるかもしれません。

常に探し回る必要はありませんが、たとえ時たまでも「いざという時の逃げる場所や経路」を探しておくせをつけておくと役立ちますよ！

Q：協働大賞の副賞はどうするのですか。

A：ううっ、そこに気づいたか・・・防災ネットワークの中で分けます。

楽しい質問、お待ちしております！

